WITH HARAJUKU

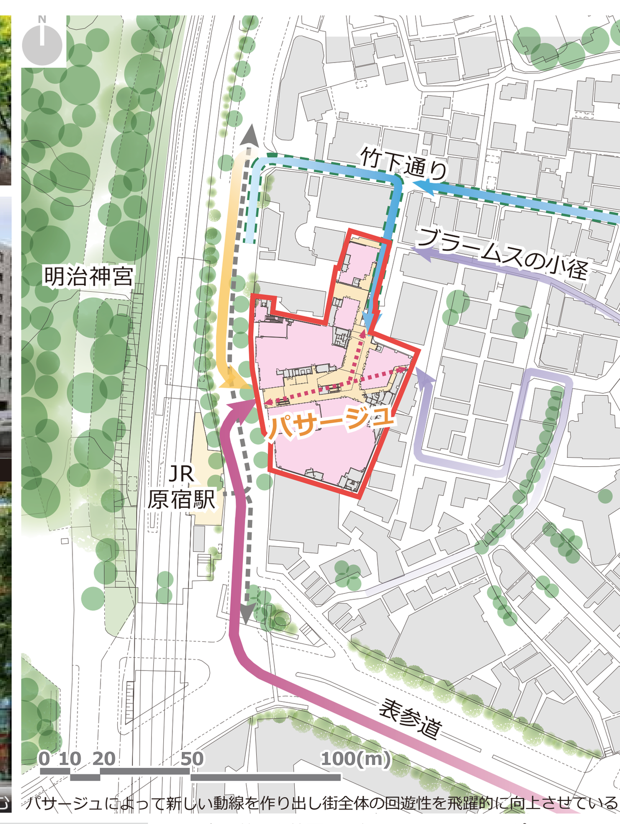
地域の環境を改善しながら、緑豊かな公共空間を創出

店舗、レストラン、コワークスペース、多目的ホール、集合住宅が立体的に構成された複合施設である。
原宿駅前通りから竹下通りの側道に抜ける半外部の公共通路「パサージュ」が竹下通りに集中する人の流れのバイパスとなり、オープンテラスや路地的空間が樹木の幹から枝葉のように立体的に展開し、行き交う人々の流れをシームレスに結びつける。

This facility is a complex of retails, restaurants, co-work spaces, multi-purpose hall, and collective houses.
The semi-external public "Passage" serves as a bypass for the flow of people concentrated on Takeshita street, and the open terrace and alley-like spaces develop three-dimensionally like branches and leaves from the trunk of a tree, seamlessly connecting the flow of people.

表参道の街並み

建設前の敷地：原宿駅前側
▼
建設後：表参道からの人の流れを引き込む



パサージュによって新しい動線を作り出し街全体の回遊性を飛躍的に向上させている

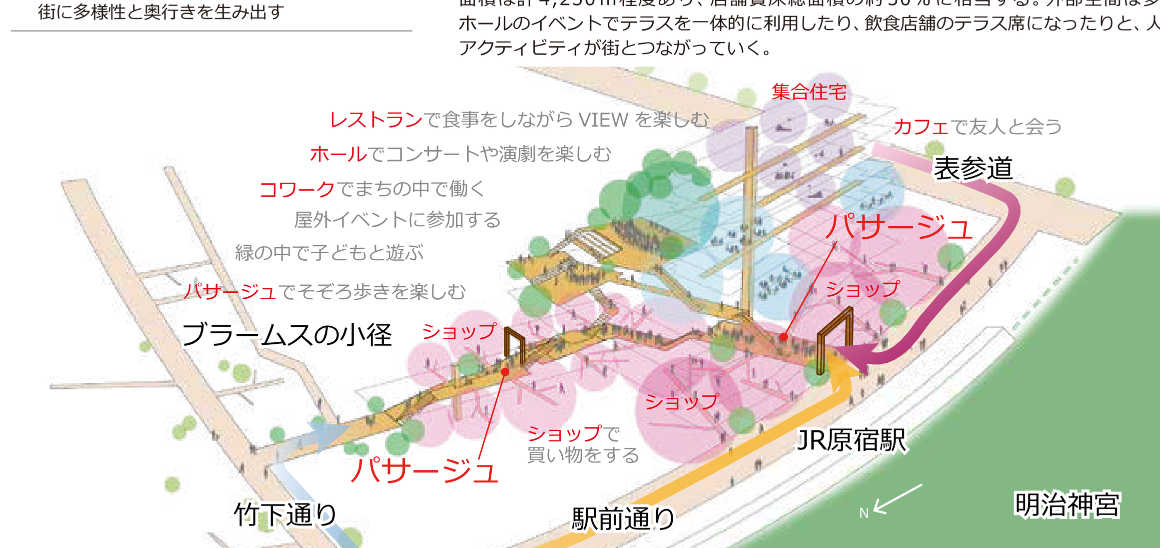
竹下通りの賑わい

建設前の敷地：竹下通り側
▼
建設後：竹下通りの賑わいが連続

街との連続性を生む「みち」の建築

パサージュが地域の回遊性を向上させ、
街に多様性と奥行きを生み出す

原宿駅前から竹下通り側に向かうにつれ、パサージュの通路幅と店舗区画のスケールを少しずつ小さくすることで、周囲の街並みのスケールと調和させている。パサージュ＋テラス＋緑化の面積は計 4,250㎡程度あり、店舗貸床総面積の約 50% に相当する。外部空間は多目的ホールのイベントでテラスを一体的に利用したり、飲食店舗のテラス席になったりと、人々のアクティビティが街とつながっていく。



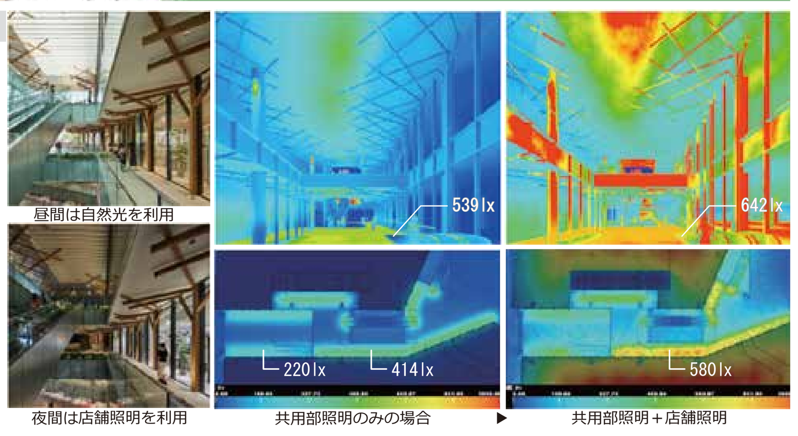
公共通路「パサージュ」が様々なアクティビティをつないでいく

敷地北西からの鳥瞰
地形や周辺の街のボリュームに合わせて立体的なオープンテラスを配置している。
明治神宮の杜を高密な原宿の街の中に延長し、街にとっての快適な居場所を提供する。

街並みに自然と溶け込む照明計画

昼夜それぞれに最適な照明配置とすることにより省エネルギーを実現した照明計画

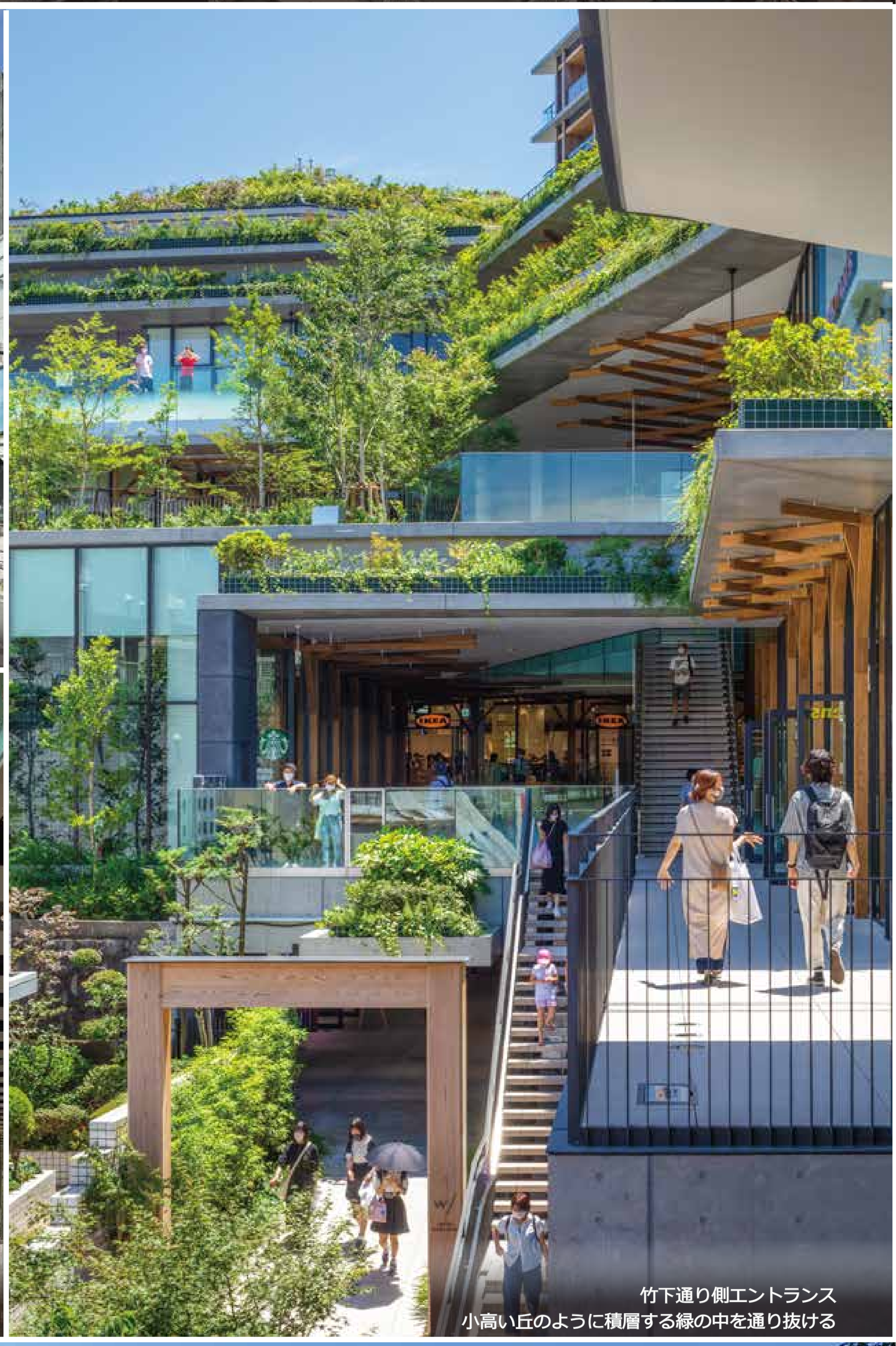
パサージュ吹抜けにはトップライトを設け、自然光を取り入れることで全体照度を向上しながら照明負荷を低減し、街路空間としてのにぎわいを活性化している。昼光に連動した制御により、最適な光量と色温度を設定して省エネルギーと意匠性を両立させている。
夜間は歩行空間を包む木フレームの合間に配置されたグレアレス照明が木漏れ日のような光環境を周辺街区につなげる。各店舗内の照明色温度を共用部に合わせることで、店舗内の照明が共用部と違和感なく一体化し、照度確保に寄与することで夜間の照明負荷を低減している。



昼間は自然光を利用
夜間は店舗照明を利用
共用部照明のみの場合 ▶ 共用部照明＋店舗照明

駅前通り側エントランス
木のゲートが来訪者を迎え入れる

駅前通り側全景
木の格子状のファサードが明治神宮の杜と対峙する


竹下通り側エントランス
小高い丘のように積層する緑の中を通り抜ける

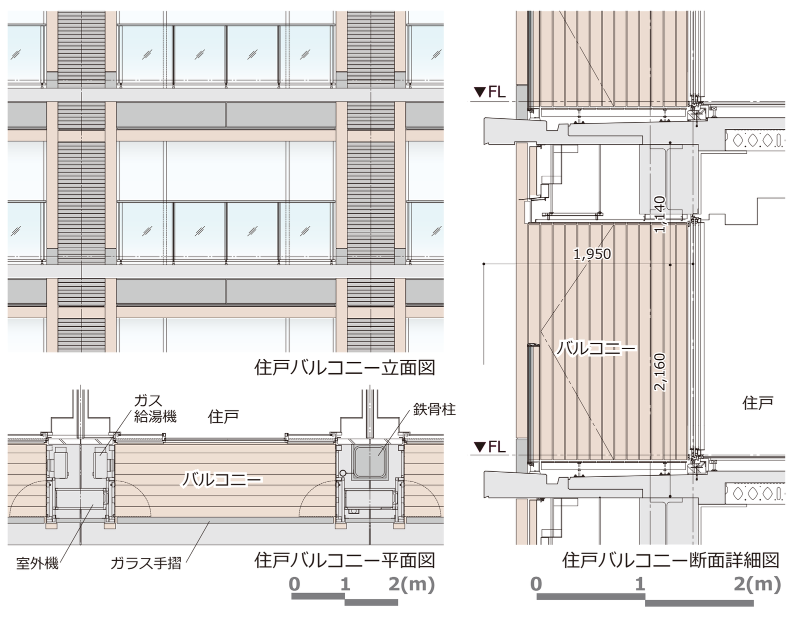
時を刻む「木」の外装が作り出す景観

木の外装が明治神宮の杜と対峙し、周辺の街並みにたいして柔らかい表情を作り出す

木の外装によって街に対して柔らかい表情を与え、明治神宮の自然と原宿の都市環境が融合する場所を作り出し、地域コミュニティにとっての象徴となっている。多摩産材を含む国産材を 90㎥程度使用して建材の地産地消を実現し、省 CO_2 に寄与し、外壁の壁面温度を抑制できる。
耐久性にすぐれた高温熱処理木材を使用し、雨掛り部をコンクリートやアルミ金物でカバーすることで汚れを防止し、経年変化による自然な色の変化が時間の流れとともに存在感を醸していく。

住戸バルコニー内観
木格子の中に設備機器を格納

木の壁面温度抑制効果
（既存建築物での実証実験結果）



住戸バルコニー立面図
住戸バルコニー平面図
住戸バルコニー断面詳細図

2Fよりエントランスを見返す
並木道と木フレームが連続する

パサージュ吹抜け
4層にわたる吹抜けの上部トップライトから自然光が降り注ぎ木漏れ日のような環境を作り出す

「地形・緑・風」を取り込む建築とランドスケープ

失われた傾斜地の緑を再生し、明治神宮の冷涼な空気を周辺街区に導く

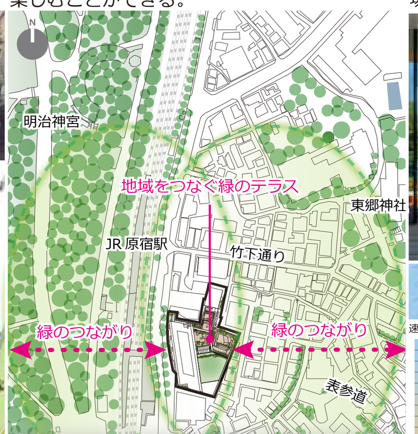
地形：敷地周辺は江戸時代の古地図において「源氏山」と記載されており、小高い丘であったことがわかる。敷地内の高低差は最大 9.6m 程度あり、この起伏を建築に延長させるようにパサージュを計画した。エレベーターによるバリアフリー動線も併設し、街の動線の一部として機能している。

緑：低層部の段状テラスは在来種を中心とした植栽で豊かに緑化されており、明治神宮の杜を原宿の市街地に連続させ、都市化の中で失われてきた東京の斜面地の緑の再生に寄与している。建築面積の約30%が屋上緑化されており、周囲の建物からも植栽の四季の変化を楽しむことができる。

風：明治神宮の杜はヒートアイランド現象の影響を受けにくい冷涼な空気が溜められている。既往の研究結果とシミュレーションから、建物を東西に貫通する風の道を作ることで周辺市街地に -1～-4℃程度の冷却効果があることを確認した。屋外テラスは緑陰の効果もあり、快適な憩いの場となっている。

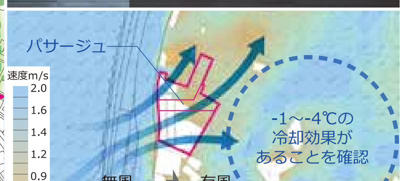
表参道界隈に残る段差　ブラームスの小径の段差

江戸時代の地歴地図

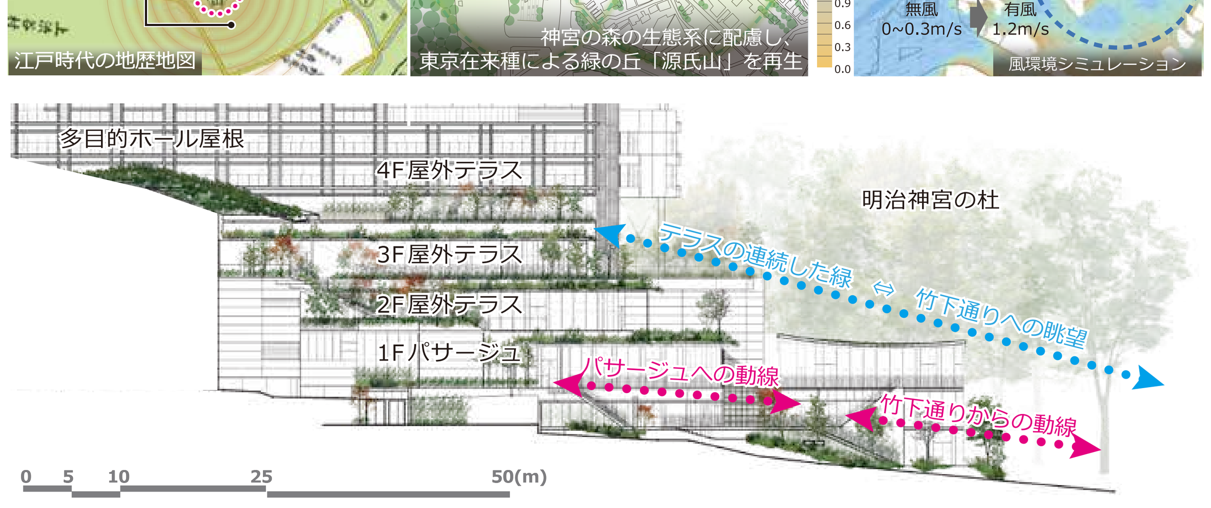


神宮の森の生態系に配慮し、東京在来種による緑の丘「源氏山」を再生

3F 明治神宮側テラス
風が通り抜けるパサージュ



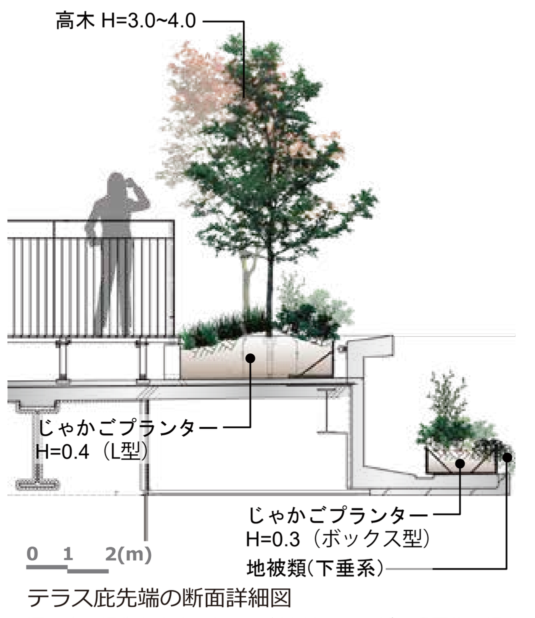
風環境シミュレーション



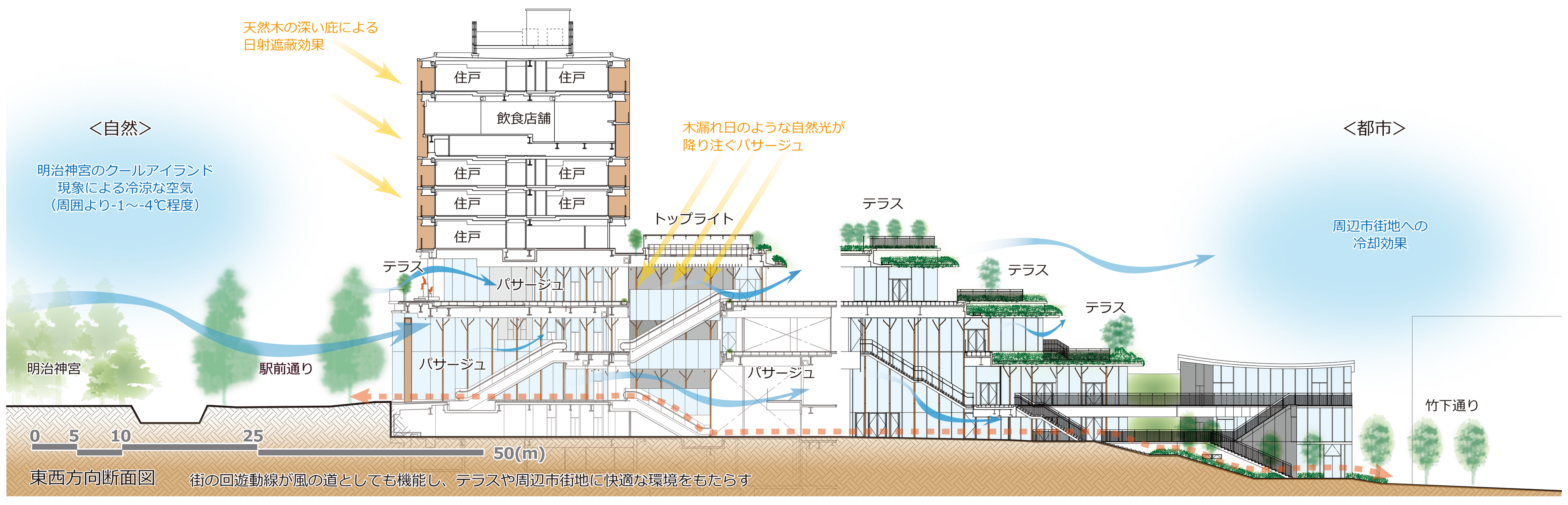
東立面図　周囲の街並みのスカイラインに合わせてセットバックしながら重層的な緑が連続する。

2-3F　竹下通側テラス
深い庇と緑化によって輻射熱が押さえられ、明治神宮の杜からの冷涼な風を感じることができる

3Fテラス夕景
冷涼な風を感じながら街の景色が楽しめる



テラス庇先端の断面詳細図
深い庇に緑化を施すことで、日射を遮蔽しながら重層的な緑を形成



東西方向断面図　街の回遊動線が風の道としても機能し、テラスや周辺市街地に快適な環境をもたらす

□評価項目		□特に重視したデザインの視点	□評価項目に対する設計者のデザイン意図（従前のデザインに比較し、優れている部分、卓越している部分に関して具体的に記述してください。）	□自己評価欄 普通 0	優れている +1	卓越している +2	小計
A.感性軸（造形）Form	01審美感	☆	明治神宮の杜に対面する敷地にふさわしい、木の外装で覆われた外観の高層建築を実現した。 低層部のセットバックするテラスに重層的な緑化を行い、四季折々の変化が感じられる豊かな景観を作り出した。			○	2
	02調和性		商業店舗の区画割やパサージュの幅を周辺の建物・街路スケールに合わせ、街並みとの連続性を図った。 全体を自然な素材感のある木の外装で統一することで明治神宮の杜との調和を図った。			○	2
	03独創性		主たる構造は鉄骨造でありながら、汚れ防止や耐久性・強度の検討を行って大規模な木の外装を実現した。 低層部のテラスは層間部分に庇状の植栽を設けることで、日射遮蔽しながら重層的な緑化を実現した。			○	2
	04象徴性	☆	パサージュ出入口には木のゲートを設け、内部通路に木のフレームを連続的に設けて象徴性の高い意匠とした。 高層部の住宅バルコニーは格子状の木組みとすることで象徴的な外観を実現した。			○	2
	05完成度		木の外装やゲート・フレームが豊かな植栽と調和し、建物全体がバイオフィリックなデザインで統一されている。 高層部の住宅バルコニーの柱型・梁型には空調室外機や給湯器などの機能がインテグレートされている。			○	2
B.機能軸（技術）Technology	06機能性	☆	パサージュを設けることで新しい街の動線を作り出し、街全体の回遊性を飛躍的に向上させている。 集客に寄与するテラスなどのオープンスペースが十分に確保されており、イベント等にも使用できる。			○	2
	07効率性		住宅部分は東西に眺望のよいテラスを持つ住戸を配置することで、中廊下形式の効率の良い計画となっている。 既存地下躯体を活かした計画とすることで、解体・新築の環境負荷を低減し、効率的な施工計画としている。		○		1
	08利便性	☆	高低差のある敷地の両端をエレベーター・エスカレーターを併設した動線で結び利便性を向上させている。 パサージュを中心に店舗・多目的ホール・集合住宅にアクセスすることができるため、利用者の利便性が高い。			○	2
	09安全性		基準法の1.25倍の耐震性を有し、集合住宅部分においても高い振動性能・重量衝撃音対策を実施している。 木の外装を採用しているが、鉄骨造・耐火性能の高い外壁で骨格を形成することで安全性を確保している。			○	2
	10先導性		建物安全度判定サポートサービスの導入によって地震による構造体への影響を確認できる。 人流予測を含む需要予測により、飲食店舗におけるフードロスの抑制に取り組んでいる。			○	2
C.社会軸（環境）Environment	11環境負荷		木の外装とすることで、一般的な外装用の建材と比較して外壁の表面温度上昇を抑制している。 建物の屋上面積の約30%に当たる面積を緑化することで、CO_2 固定に寄与している。			○	2
	12資源消費	☆	鉄骨電炉材を本体鉄骨躯体の13%使用することで、鉄骨工事によるCO_2 排出量を400t削減した。 約90㎥の木材を使用することにより、建築資材の生産に関わるCO_2 を削減している。			○	2
	13地域環境性	☆	東側低層部の緑化は周辺建物から眺めることができ、地域に潤いのある景観を創出した。 パサージュを風の道として明治神宮の杜の冷涼な空気を市街地に導いて、地域の環境を改善させている。			○	2
	14ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙ性		高低差のある敷地でありながらバリアフリー動線を整備し、誰もがアクセスしやすいよう配慮している。 店舗・多目的ホール・集合住宅など様々な機能に対して直感的に理解しやすいサインデザインを設けている。			○	2
	15先進性		東京の都市間における緑のネットワークを繋ぐことによる生物多様性への貢献を図っている。 外部通路を多用することで、アフターコロナにおける新しい商業施設の在り方を提示した。			○	2
D.経済軸（LCC）Life Cycle Cost	16ｲﾆｼｬﾙｺｽﾄ		木の外装を採用している一方で、開口サッシュについては既製品をベースとし、コストのバランスを図っている。 既存地下躯体を活かした計画とし、地下の階高を限定しながら機能を成立させることでコストを削減している。			○	2
	17ﾗﾝﾆﾝｸﾞｺｽﾄ		LED照明の採用だけでなく、店舗共用部を半外部とすること空調負荷を軽減しランニングコストを低減した。 テラスの深い庇や豊かな植栽の緑陰効果によって空調負荷を低減し、ランニングコストを低減している。		○		1
	18維持管理	☆	木の外装には耐候性の高いPCa板やアルミ金物によって奥行きのある庇・水切りを設け、汚れ・劣化防止とした。 各植栽地は在来種主体の混色とすることで枯損リスクを低減し、植栽維持管理負担の低減を図っている。			○	2
	19耐久性	☆	外部に使用する木材は耐久性の高い高温熱処理木材としている。 木材を交換する際には外部足場を設けることなく交換可能なディテールとしている。			○	2
	20ＬＣＣ		照明計画は、昼光利用と店舗内照明による共用部への照度補完によってLCCの低減を実現している。 店舗の主要な共用部通路を半外部とすることで、空調負荷や管理上の負荷を低減させている。		○		1

[建築概要]

建物用途：店舗・展示場・共同住宅
階数　　：地下 3 階 地上 10 階
構造形式：S 造 一部 RC 造
敷地面積：5,067.99 ㎡
建築面積：4,184.03 ㎡
延床面積：26,638.55 ㎡
建物高さ：43.82m